

KIFA Report Vol. 107

河内長野市国際交流協会

Oct. 2018



姉妹都市カーメル市民との交流会にて

- 姉妹都市カーメル市民との交流会
- マナー講座
- 夏休み子ども絵画教室
- ゆかたで夏まつり
- 国際料理教室 ～ドイツ編～
- コンニチハ！日本語サロンです
- KIFA サマーコンサート ～インカの響き～
- インフォメーション



姉妹都市カーメル市民との交流会

7月23日（月） 河内長野ガス 4階ホール



2年に一度の姉妹都市との交流会が、この夏も開催されました。爽やかな水色のポロシャツ姿で現れたのは、インディアナ州カーメル市の高校生です。河内長野市の清教学園高校を訪問中の皆さんを、この日はKIFAでお迎えして、地域の方と楽しく過ごしていただきました。

山本会長が英語でスピーチ。
カーメル市の皆さんに歓迎の意を伝えました。

■みんなでクラフト！

纏（まとい）とコマを作りました。

折り紙ボランティアの梶村さん、上山さんのレクチャーのもと、工作と折り紙を楽しみました。過去の交流会でも好評だった折り紙のコマに加え、今年は纏（まとい）作りにもチャレンジ。纏は、日本の伝統的な旗の一種で、戦国武将や火消しのシンボルとして使われてきました。

紙に好きな色を塗って細長く切り込みを入れ、竹串を通したペットボトルのキャップに貼り付けると、オリジナルの纏が完成。手でくるくる回すと綺麗に広がります。絵や文字を描いた人もいて、それぞれが色とりどりの纏を嬉しそうに回していました。

折り紙のコマは、3枚の紙を折った3つのパーツを組み合わせて作ります。途中、小学生の女の子が折り方に迷っていると、隣に座っていたカーメルの高校生が手伝ってくれたようです。「Thank you」「You're welcome!」笑顔で言葉を交わす二人がとてもほほえましく、素敵なワンシーンでした。

コマが完成したらコンテストを開催。誰が一番長く回せるでしょうか？「One, Two, Three, Go!」コマを回す姿は真剣で、とても盛り上がりました。ちなみに1回目の優勝者は、大きな手で一生懸命ウサギ柄の折り紙を折る姿が印象的だった、カーメル校の男の先生でした。

休憩タイムのおやつは、手作リイチゴシェークです。今年は記録的な猛暑。連日35度を超える暑さの中、冷たくて甘いイチゴシェークは最高です。スタッフが「甘さ、どう？」と尋ねると、カーメルの皆さんは「おいしい！おいしい！」と日本語で喜んでくれました。



■カーメル校の生徒にインタビュー

河内長野の印象は？

「モックルが気に入りました。カーメルにもこんなキャラクターがいてほしいです」

「河内長野は山が高いですね。カーメルには丘はあるけど、山はほとんどありません」

「両親がいいっていったら、ここに住みたいです」

河内長野の良いところを、改めて気づかせてもらった気がします。これからも姉妹都市交流を通して、互いの街の魅力を引き出し合っていきたいですね。カーメル市の皆さん、遠路はるばる河内長野市に来ていただき、ありがとうございました！





夏休み子ども絵画教室

～君の絵を姉妹都市に送ろう～

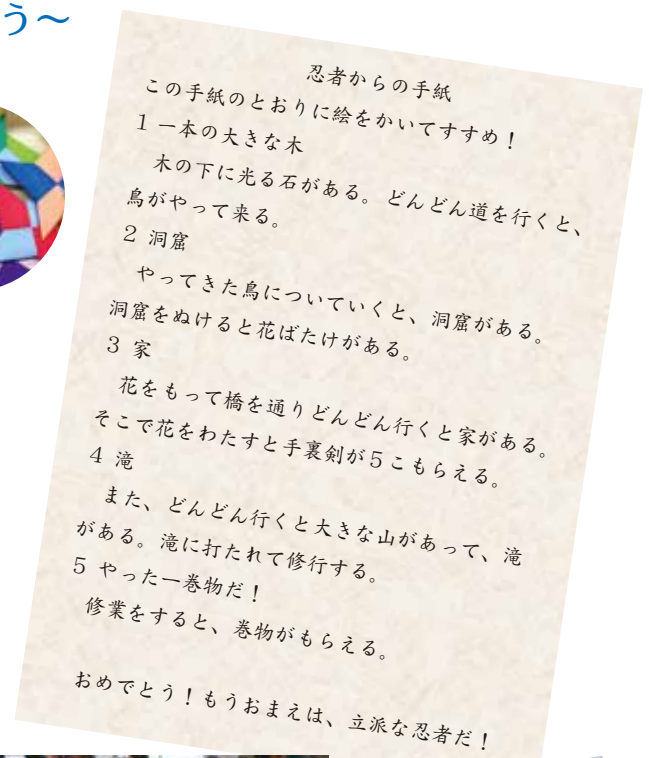
8月7日（火） 市民交流センター 4階 創作工房

国際交流協会では、河内長野市の姉妹都市、アメリカインディアナ州のカーメル市と20年以上に亘って子どもたちの絵画作品を交換しています。両市の子どもの作品を通じて、互いの文化や考え方の違いを認識したり、共通点に気づくことができたりと、地味な活動ですが、小さな国際交流として続けてきています。

今年のテーマは「忍者からの手紙」をもとに巻物をつくるというもの。指導を担当されているアートコミュニティの船本先生に初めてこのアイデアをお聞きしたときは、少し驚きました。巻物はアメリカにはないので、展示方法を含め、カーメルではどのような反応をするだろう？また、現代の子どもたちにとっても、物珍しい表現方法です。さらに、国際交流に登場する「忍者」というイメージ、何かワクワクするものがあります。

クイズも含めて姉妹都市についての概略の紹介ビデオを見たあと、早速制作に取り掛かります。まずは、巻物作り。用意された和紙や千代紙、紐、木の棒で巻物を作ります。そこから、「忍者からの手紙」に書かれている指示にしたがって、墨で「木」「洞窟」「家」「滝」などを描いていきます。筆の使い方に慣れていない子どもたちには難しいかと思いましたが、逆に味のある線が出せたり、彼らにとっては興味深い体験になったようです。制作の途中では、「手紙」に書かれている通り、光る石や手裏剣を手に入れる子どもたち、ただ描くだけではない楽しさもいっぱいです。墨で描くのが終わると、絵の裏側から水彩絵の具で色をつけていきます。これが和紙を使う利点ですね。裏から色をぬると墨で描いた輪郭線が鮮やかなまま残ります。まるで、ステンドグラスのようです。

最後には、同じ手紙に沿って制作したにもかかわらず、それぞれ独創的で個性的な作品が完成しました。制作指導の船本先生と折り紙の手裏剣で遊んだり、おやつをいただいたり、今年の夏の絵画教室も楽しく終えることができました。カーメルの人たちの反応が楽しみです。



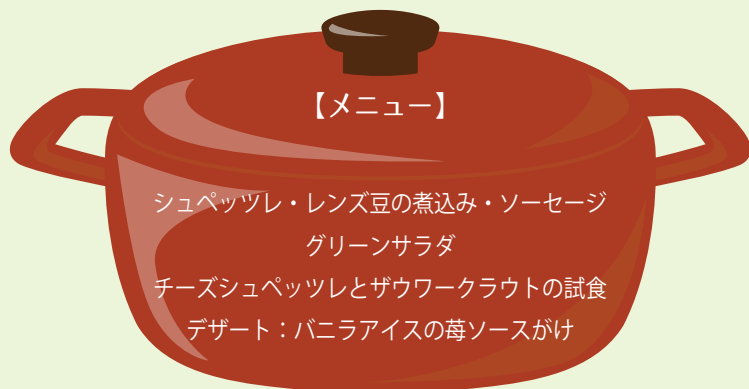
国際料理教室 ～ドイツ編～



8月18日（土） 市民交流センター 4階 食工房

今回の国際料理教室はドイツ編。ドイツ南西部のシュヴァーベン地方、シュヴァルツヴァルト（黒い森）やボーデン湖でも知られるバーデン＝ヴュルテンベルク州の郷土料理を作りました。

講師はドイツ出身のヴォルボルトさんと、奥様の紫（ゆかり）さん。ドイツ在住歴 43 年の紫さんがご主人のドイツ語を通訳し、調理はお二人で分担しながら、仲良しご夫婦によるにぎやかな料理教室のスタートです。



【メニュー】

シュペッツレ・レンズ豆の煮込み・ソーセージ
グリーンサラダ
チーズシュペッツレとザウワークラウトの試食
デザート：バニラアイスの苺ソースかけ

シュペッツレは南ドイツの郷土料理で、卵を練り込んだ短めの麺類です。バーデン＝ヴュルテンベルク州の主食のひとつで、ソースやシチューをかけたり、肉料理と一緒に皿に盛りつけたりして食べます。現地ではパスタやマカロニのようにゆでただけで使えるものが市販されていますが、「家で作るほうがおいしいですよ」と話すヴォルボルトさん。



もちもちおいしい！手作りシュペッツレ

小麦粉に卵、牛乳、塩を入れて木べらで練って生地を作り、熱湯でゆでます。まな板に生地を広げて包丁で削り入れるのが昔ながらのやり方ですが、ご夫妻が便利グッズを持ってきてくれました。その名も Spätzlehobel（シュペッツレメーカー）。お鍋の上に置いて生地を入れ、スライサーの要領でスライドさせると、下の穴から生地が出てきてお湯に落ちていきます。シュペッツレメーカーを交替で体験しながら、包丁とまな板で器用に削り入れる人あり、お玉ですくってお箸でつまみ入れる人あり、各グループ個性溢れるシュペッツレができていきました。



これぞ名物、レンズ豆料理

レンズ豆でスープを作り、シュペッツレと長めのソーセージと合わせた一皿がバーデン＝ヴュルテンベルク州の名物です。レンズ豆は事前にもどさず、しばらく水に浸してから火にかけ、15分ほど煮れば柔らかくなります。ニンジン、玉ねぎ、セロリ、角切りベーコンと具だくさん。じゃがいものすりおろしとお酢を入れるのが特徴的です。最後にソーセージも加えて、水気がなくなるまで煮込めば出来上がり。

各グループ味見をして、「レンズ豆の食感がいいね」「よく味が染みてる」と大満足のご様子でした。



試食タイム

料理が完成すると、ヴォルボルトさんが本場の盛り付けを披露してくれました。お皿いっぱいでおおいそう！ドイツ製の瓶詰めのザウワークラウトも添えて、いただきます。さて、お味のほうは…

「外国を感じます」「ビールがほしくなる（笑）」

皆さん、ドイツの家庭の味を満喫できたようです。

紫さんお手製のチーズシュペッツレとデザートも大好評でした。

ダンケ・シェーン

ヴォルボルトご夫妻、Danke schön!

今回の開催を広報紙で知り、初めて参加してくださった方もいました。KIFA の国際料理教室はどなたでも大歓迎です！一緒においしく楽しいひとときを味わいませんか？ 次回開催をお楽しみに。

KIFA サマーコンサート ～インカの響き～

8月18日（土） 市民交流センター 4階 イベントホール

まだまだ暑さの残るお盆明けに、～インカの響き～と題して皆さまおなじみの「フローレス・デュオ」によるサマーコンサートが行われました。イベントホールは満員のお客様で熱気ムンムンでした。

お二人は、インカ文明の跡がいまだに残る南米ペルーの古都クスコ出身の兄弟デュオで、「音楽には国境はない。音楽を通じてステキな出会いがありますように...!」を合言葉に、日本各地をはじめいろいろな国で演奏活動されています。ペルーのクスコにある障害孤児の施設の支援もされており、毎年12月に行われているチャリティーコンサートも、今年で20周年を迎えるそうです。

現在、大阪にお住まいとのことで、サマーコンサートは、微妙な関西弁の混じった日本語でご挨拶から始まりました。素敵な中南米の曲の演奏に交えて、客席も参加します。フローレス・デュオの演奏に、観客が「アチャチャ!」の合いの手を入れるのですが、照れくささもあって中々うまく合いません。さすがに関西在住の長いお二人、タイミングがずれても、見事なツッコミで返してくれました。

「ケーナ」は、日本でも「コンドルは飛んでいく」でおなじみの楽器ですが、その他にも、腰を下ろして演奏する、スピーカーボックスのような「カホン」、「チャランゴ」という小型のギターのような、弦楽器、竹筒を組み合わせた「サンポーヤ」という管楽器の音色も紹介していただきました。

「国境のない音楽」ということで、ラテン風にアレンジした、「見上げてごらん夜の星を」、「となりのトトロ」、果ては「炭坑節」まで飛び出しました。ちなみに、炭坑節の合いの手「サノヨイヨイ」は、ばっちり決まりました。猛暑が続く中でのサマーコンサートでしたが、さわやかなアンデスの風を感じたひと時でした。



コンサートの前に開かれていた【国際料理教室～ドイツ編～】で、ドイツ料理に舌鼓のフローレス・デュオ

マナー講座

6月16日 市民交流センター 3階 和室



日本人が普通と思っていることが、海外から見ると不思議に見えることがあります。たとえば会釈やお辞儀。電話でもつついとお辞儀をしてしまう日本人。これは、外国の方

にとっては不思議なことでしょうね。電話の向こうの相手には見えないことはわかっているのに、やめられない習慣です。

電車が時間通りに正確に運行されるのも、外国人には驚きです。乗り物だけではなく、日本人の時間の正確さもよく知られています。交通ルールもきちんと守られていますね。また、暗黙のルールとでもいうのでしょうか、エスカレーターでは、大阪では右側に立ち、東京では左側に立ちますが、理由はわかりません。

自動車や電化製品の品質の良さは言うまでもありませんが、それでも海外の方が驚くものの中で一番多いのがトイレだそうです。ウォッシュレットはもちろん、「音姫」、暖房便座、自動で開くトイレの蓋など、初めて日本に来た外国人はビックリ。

参加された中国の方によると、日本で驚いたのは、どこでもきれいなことだそうです。きれいだから、どこでも座れるというのがすごいとか。また、生の魚（刺し身）が食べられるのも驚きだそうです。冷凍・冷蔵技術のおかげと、周りを海で囲まれていて、比較的新鮮な魚を手に入れやすい地理的環境にもよるのでしょうか。

他にもいろいろな「日本の不思議」が紹介され、楽しいひとときとなりました。

ゆかたで夏まつり

7月21日 市民交流センター 3階 和室、野作公園

盆踊りのシーズン恒例のイベント「ゆかたで夏祭り」が今年も開催されました。このイベントは、外国の方にゆかたを着てもらい、日本の夏の風物詩である盆踊りに参加することにより、日本の文化を体験して理解を深めてもらうというものです。

今年は、4人の外国人の参加があり、市民交流センターの和室でゆかたの着付けをした後、野作公園で行われていた盆踊りに参加して、盆踊りや屋台巡りで日本の夏を楽しみました。

自前のゆかたを持ってこられた方もいて、ゆかたで夏祭りに行くことで日本の文化を肌で感じる事ができたという、うれしい感想もいただきました。

今回は時間の都合で、スタッフにゆかたの着付けをしてもらいましたが、自分ひとりでもゆかたが着られるように、着付けの練習、指導もしていきたいとのことです。



●日本語サロン スケジュール

月	曜日	日曜 Sun.	火曜 Tue.	木曜 Thu.
10月	Oct	7・14・21・28	2・9・16・23	4・11・18・25
11月	Nov	4・11・25	6・13・20・27	1・8・15・22
12月	Dec	2・9・16	4・11・18	6・13・20

＜開講場所と時間＞

日曜日 Sundays 14:00～16:00
千代田公民館 2階
火曜日 Tuesdays 10:00～11:45
市民交流センター(KICCS)3階
木曜日 Thursdays 18:00～20:00
ノバティ南館3階 ノバティホール



●語学クラス スケジュール

コース		英語 フリー トーキング	英語 (中級)	英語 (初級)	中国語 (初級)	中国語 (入門)
時間		14:00～15:30	19:00～20:30	19:00～20:30	19:00～20:30	10:00～11:30
開講日	10月	13	9・23・30	2・16	5・19	3・17
	11月	10	13・27	6・20	2・16	7・21
	12月	8	11・25	4・18	7・21	5・19

■TREK 河内長野版 英語村



ネイティブ講師による英語だけによるレッスンで、子どもたちに本物の英語に触れ、体験する機会を提供します。

日程・時間：10月27日(土)、11月10日(土)、17日(土)
10:00～11:30 (3日間とも同様の内容ですが、複数回の参加申し込みもできます)

対象：市内在住の小学5,6年生

定員：1日 40名(先着順)

参加費：無料

申込み：10月5日(金) 9:00より 電話かメールで
国際交流協会へ、参加者氏名、学年、参加
希望日、連絡先電話番号をお知らせください。
※別紙チラシもご覧ください。



■世界とつながろう!

「世界ごった煮」と同日開催です。各国のブースでその国のことをいろいろ教えてもらおう!

と き：11月18日(日) 10:00～11:00

ところ：市民交流センター 3階 大会議室

対象：小学生

定員：先着 40名

申込み：11月6日(火) 9:00より



■World Potluck 2018 世界ごった煮

ステージでのパフォーマンス、ブースでの食べ物や雑貨の販売、ワークショップやゲーム、絵本の読み聞かせなどをおして世界の文化を体験しましょう!

と き：11月18日(日) 11:00～16:00

ところ：市民交流センター 3・4階

対象：会員、一般

参加費：無料 (申込み不要) ブースでの販売やワークショップの参加は有料のものもあります。

※別紙チラシもご覧ください。



■第17回日本語ボランティア講座



～始めませんか、日本語で広げる異文化交流～
地域の日本語ボランティア活動に関心のある方や既に活動中の方を対象に多文化共生社会の現状と外国人への日本語指導に関する知識と技能を講演と講義(全4回)で学びます。

第1回 基調講演「地域で考えるこれからの多文化共生」 ～知っておきたい異文化と 多様性への理解～



講師：田村 太郎氏

一般財団法人ダイバーシティ研究所
代表理事

11月23日(金・祝)
14:00～16:00

第2回「日本語ボランティアって何?」

と き：2019年1月26日(土) 14:00～16:00

第3回「日本語が話せない外国人とのコミュニケーションのとり方」

と き：2019年2月2日(土) 14:00～16:00

第4回「楽しく話題を広げたい!」

と き：2019年2月16日(土) 14:00～16:00

第2回～第4回の講師：矢谷 久美子氏

(財)海外産業人材育成協会関西研修センター講師

ところ：市民交流センター 3階 大会議室

参加費：会員1,000円(300円)※カッコ内は基調講演のみ
一般2,000円(500円)の場合

定員：先着 100名

申込み：11月6日(火)から11月22日(木)までに電話、メール
で①住所②氏名③電話番号④全回受講or基調講演のみ参加を記してKIFA事務局まで

■多文化の部屋

「南天苑インバウンド事情」(仮題)



と き：12月1日(土) 14:00～16:00

ところ：市民交流センター 3階 中会議室

定員：先着 40名

参加費：無料

申込み：11月13日(火)より

コース		スペイン語 (初級)	韓国語 (中級)	韓国語 (初級)	韓国語 (入門)
時間		19:00～20:30	13:00～14:30	10:40～12:10	15:00～16:30
開講日	10月	5・19	10・24	10・24	10・24
	11月	2・16	14・28	14・28	14・28
	12月	7・21	12・26	12・26	12・26

■問い合わせ・申込み■

河内長野市国際交流協会(KIFA)
事務局

〒586-0025 河内長野市昭栄町7-1
市民交流センター(キックス) 3階

TEL: (0721)54-0002

FAX: (0721)54-0004

Eメール: office@kifa-web.jp

日本語と踊りの世界

ルル・ウルウィヤーさん（インドネシア）



私はウリと申します。インドネシアの大学で日本語を専攻しています。昨年6月に日本に来ました。

インドネシアで日本語を勉強していると「どうして日本語を勉強するのですか」とよく聞かれます。大抵の人は「日本の映画が好き」とか「アニメが好き」と答えます。

私も同じように答えますが本当はそうではありません。最も好きなことと言ったら踊りなのです。特に伝統的な踊りです。なぜ踊りが好きなのに今日本語を勉強

しているのでしょうか。私にとってそれは難しい質問だと思います。

高校3年生の時、日本語の勉強は大嫌いでした。半年くらい日本語を勉強しましたが全然好きになれませんでした。「〇は〇です」という授業はつまらなく、授業中いつも寝ていたので、日本語は全然分かりませんでした。ローマ字を使うことで十分ですから日本語を勉強しなくなかったのです。

踊りが好きだったので、高校を卒業する時、大学では踊りを専攻しようと思いました。しかし両親は踊りを専攻することに反対したので、私は迷い悩みました。「ママ、パパはひどいなあ」と思って怒りながら、何を専攻しようか随分考えました。結局あの嫌だった日本語を専攻しもう一度勉強してみようと思ったのでした。

日本語専攻の1年生の時、初めてひらがなとカタカナを勉強したところ、おもしろいなどだんだん興味がわいてきました。学生寮で授業の復習のためテキストを読んでいると「あれ？それは何語？読めるの？すごいね、ウリちゃん」と他の学科の友達が褒めてくれました。それは「日本語の初歩」という本だったのですが、他の人が分からない仮名を読めるようになったので何だか誇らしく思いました。

両親も、私の日本語をいつも褒めてくれるようになりました。両親は私の好きな事にはいつも反対で、このように褒めることは初めてだったのです。その時からだんだんやる気が出てきて、日本語が好きになってきました。

しかし、インターンシップで日本にきて、日本人と会話してみるとわからないことがたくさんあり、自信をなくしてしまいました。関西弁も難しいし「私の日本語はだめだ」と思うようになりました。もうあきらめたい、という気持ちになり、毎日母にビデオ電話で話すと、母は「いつも応援しているから」と励ましてくれます。日本語の先生も応援してくださるので、今はもっともっと頑張ろうと思います。

近頃日本語がだんだん好きになり、日本に住みたいと思うようになってきました。私は将来大学院生として日本の大学で勉強したいです。日本では色々な国からきた留学生に出会う機会にも恵まれるでしょう。踊りも好きですから他の国の伝統的な踊りも勉強できるでしょう。私の夢は日本語の先生になることと、伝統的なインドネシアの文化を守ることです。『日本語と踊りで世界へはばたこう！』実現するために頑張ります。



all-free-download.com

11月18日は何の日かご存知ですか？

編

「い・い・ひと・や」？ ゴロ合わせしたら、たまにいい感じのフレーズができてしまいましたが、それはさておき。今年の11月18日（日）は、KIFAの国際イベント「WORLD POTLUCK 世界ごった煮」の開催日です。今年が第一回の開催となるこのイベント、「KIFAを代表するイベントにしていきたい」と、運営チームの皆さんが張り切って準備を進めています。

集

後

記

歌やダンスのステージパフォーマンス、世界各国の食べ物や雑貨の販売、ワークショップ、キッズのためのコーナーなど盛りだくさん。たくさんの人、多国籍な文化が大集合。それらを合わせてコトコト煮込めば、どんな「ごった煮」ができるのでしょうか。それぞれのうまみが最大限に引き出されて、これまでにないほど味わい深い一日になりそうですね。

11月18日（日）「WORLD POTLUCK 世界ごった煮」 キックス（市民交流センター）にて開催です。皆さま、どうぞお楽しみに。

無料
メールマガジン
配信中！

KIFAの楽しいイベントや情報を
いち早くお知らせします。
お申し込みは、事務局または、KIFA
ホームページから

<http://www.kifa-web.jp/>



chihiro